

平成30年版『日本美術年鑑』刊行事業・出版事業『美術研究』(シ07)

日本美術年鑑

2018

東京文化財研究所

『日本美術年鑑』

日本美術年鑑は、我が国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。文化財情報資料部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が1936(昭和11)年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。平成30年版は、B5判、459ページとなった。出版に際し、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

『美術研究』

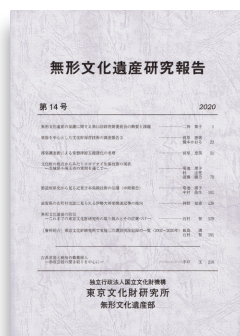
1932(昭和7)年1月、当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第1号を刊行。以来、80年以上にわたり、日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関する西洋美術についての論説、研究ノート、書評、展覧会評、研究資料・図版解説等を掲載している。令和元年度は428号、429号、430号を刊行した。出版に際して、東京美術商協同組合、株式会社東京美術倶楽部より助成を受けた。

美術研究

無形文化遺産部

2-(4)-②-1)

無形文化遺産部出版関係事業(△04)



『無形文化遺産研究報告』

無形文化財や無形民俗文化財、文化財保存技術に関する研究論文、調査報告、資料紹介等を掲載している。

『無形民俗文化財研究協議会報告書』

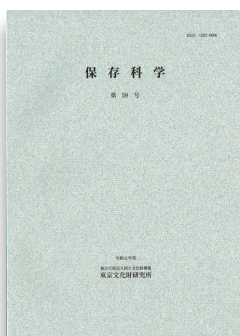
無形文化遺産部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して無形の民俗文化財の保護と継承について研究協議する会を開催している。第14回にあたる令和元年度は「無形文化遺産の新たな活用を求めて」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。



保存科学研究センター

2-(4)-②-1)

『保存科学』第59号の出版(ホ07)



『保存科学』第59号

佐野千絵、稲葉政満(東京藝術大学大学院美術研究科教授)、間淵創(文化財活用センター保存担当研究員)、友田正彦、早川泰弘の5名からなる編集委員会を編成、投稿された13件全ての原稿に対して、査読委員による査読を実施、報文3件、報告7件、資料1件、計11件の掲載を決定した。

<https://www.tobunken.go.jp/~ccr/pdf/59/MOKUZI59.html>